

運命がレモンを手渡してくれるなら、レモネードをつくってみよう

「運命がレモンを手渡してくれるなら、レモネードをつくってみよう」

デール・カーネギー

自分の決めた道をまっしぐらに歩むのもいいが、それでも自然の流れを見失ってはいけない、ということだろう。物事には、経緯がある。

それは、原因と結果という言葉であらわすこともできる。

すべてのことは、何かしら方向性がある、ある一定の方向に流れていくものだ。

それをよく見極めないで唐突のことをしても意味がないとカーネギーは言うのだ。

また、レモンには「嫌いなもの」という意味があるので、レモンがあればレモネードをつくればよい、というのは、嫌なものもよいものに変えてしまおう、ということだ。

たしかに、運というのは、こうした発想の転換から生まれるものかもしれない。

自然の流れに素直に身を任せれば、本当に必要なこと、行動、人材が見えてくることもあるだろう。

つねに大きく開かれた心でまわりを見るとよい。

そうすれば、「こちらの方向に行く」ということが自然とわかる。

反対に、心を固く閉ざして視野を狭めると、自然の流れを見失う。

レモンも「嫌なもの」のまま。これでは運どころではないだろう。

素直さ、自然体、ほがらかさ、発想の転換は、運を連れてきてくれるものである。

(名言発掘研究会編 『勇気がわいてくる世界の名言』 はまの出版 より抜粋)